

興味深い石の文化財

映画評論家 大内 秀 邦

土器より前の石器時代からはじまって、縄文、古墳時代を経て歴史の流れに従って江戸時代にいたる石の文化財を、日本各地にたずねた、目に見えない労力と手数のかかった作品である。

人びとが忘れがちな目立たない石の文化財が、意外に私たちの生活に身近なところから、きびしく時代を語っていることを知り、文化財としての貴重さに認識を新たにさせられる。固い石もそうした認識がなければ、どんどんこわされ失われていくのである。

芸術祭優秀賞 青少年映画賞
文部省特選 企画／文化庁



石の文化

カラー 29分

¥195,000

つきぬ魅力を持つ石の文化財
もの言わぬ石が語る日本の歴史

対象 中学校・高校・成人

用途 歴史・美術

日本文化シリーズ

和 菓 子	カラー 26分
石 の 文 化	カラー 29分
明治の洋風建築	カラー 28分
志 野 と 翁	カラー 39分



製 作 株式会社 桜映画社

配 給

東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666

石の利用は、土器よりもはるかに古い。さまざまな石器は、私たちの祖先にとって、石がどんなに親しいものであったかを物語っている。

古墳時代に入ると、巨大な石を構築する技術も発達した。飛鳥時代には大陸の帰化人の活躍がめざましく、母国の様式によって建てたといわれるものも残っている。

仏教の伝来にともない、大きな礎石の運搬、加工の技術も伝えられた。千二百年前の国をあげての仏教心酔は、仏足石や石仏などの遺物にもうかがうことができる。平安時代には、仏教は中央から全国にひろがり、磨崖仏や、宝塔、五輪塔のような石造美術がさかんになった。

鎌倉時代になると、わが国の石造美術は最盛期をむかえた。仏教が庶民の間にひろがって、石地藏がつくられるようになったのもこの時代からだ。

石は、加工したものだけでなく、自然のままの姿でも親しまれた。自然石によって庭園の美を構成する技

法は、日本特有のものとして発達した。

近世になると、宗教的記念物からようやく生活の機能や美を構成するものへとかわってきた。近世の石工たちは、相つぐ城郭の築造と、日光東照宮の造営工事に大きな刺激をうけたといわれる。

一方、生活の中に石を美的に生かす日本人の造形感覚を、みごとに開花させたのが桂離宮といえよう。ここには日本人の繊細な感覚が、不朽の光を放っている。

江戸時代には、石によるかなり大規模な灌漑工事もみられる。熊本の通潤橋はその代表的な例でまさに庶民の力が生んが圧巻だ。

日本には外国にみるような巨大な石の遺物は比較的小さい。しかし、長い歴史の中で、石は生活の伴侶となり、そこには多彩な石の文化も生まれてきた。

そうした貴重な文化遺産を、深い愛情で見守っていただきたいものである。

製作 村山英治
監督
脚本 北条明直
撮影 木塚誠一
音楽 別宮貞雄
解説 芥川比呂志



この映画に出てくる石の文化財

無土器時代

握斧（群馬県岩宿出土）
石器の製作過程を示すもの（埼玉県砂川出土）

縄文時代

石鏃（北海道出土）
石斧、石槍、石ヒ、石錐、石皿、岩偶
環状列石（秋田県大湯町万座遺跡）

古墳時代

勾玉、管玉、切子玉、丸玉
石釧、車輪石、鍬形石
装飾古墳の原始絵画（直弧文は熊本県嘉島村
井寺古墳、同心円紋様は熊本市金甲古墳）

飛鳥時代

石舞台（奈良県明日香村）
鬼の厠、鬼の俎、酒船石、亀石（同上）
石人像、須弥山石像（東京国立博物館蔵）
人猿石像（飛鳥櫓隈出土）

奈良時代

石塔寺三重塔（滋賀県蒲生町石塔寺）
礎石（奈良薬師寺西塔心礎、東大寺講堂、山城国分寺跡）
頭塔薬師三尊石像（奈良市頭塔森）
仏足石（奈良薬師寺国宝）

平安時代

白杵磨崖仏（大分県白杵市中尾）

笠置寺磨崖仏（京都府笠置町笠置山）

鎌倉時代

東大寺法華堂石灯篭
法隆寺石灯篭
高山寺宝きょう印塔（京都市右京区梅尾町）
覚園寺宝きょう印塔（鎌倉市）
箱根山宝きょう印塔（神奈川県箱根町）
五輪塔（神奈川県箱根町）
忍性五輪塔（鎌倉市極楽寺）
十三重塔（京都府宇治市）
般若寺笠塔婆（奈良市般若寺町）
談山神社摩尼輪塔（奈良県桜井市多武峯）
板碑（埼玉県企川村慈光寺）
十輪院石仏がん（奈良市十輪院町）
箱根山地蔵（神奈川県箱根町）

室町時代

西芳寺池庭・枯山水（京都市西芳町）
大仙院書院の石庭（京都市大徳寺）
竜安寺石庭（京都市竜安寺）

桃山時代

茶室（京都市、藪ノ内家燕庵）
熊本城（熊本市）
日吉大社の石橋（滋賀県坂本）

江戸時代

日光東照宮（栃木県日光市）
桂離宮（京都市）
通潤橋（熊本県上益城郡矢部町長原）